



On line Formulary of Yamaguchi university hospital(オンライン医薬品集)を薬剤部 HP へ掲載

医薬品情報は日々更新されており、今までの冊子による医薬品集では改訂が間に合わず、古い情報により医薬品を誤った方法で使用する恐れがあります。医療安全、適正使用の観点から、業務端末において最新の医薬品情報(1ヵ月毎に更新)を確認する方法を薬剤部ホームページ上に掲載したのでご確認ください。下図の手順で閲覧できます。

①EGMAIN-GXトップページの「薬剤部」をクリックする。

②「On line Formulary of Yamaguchi university hospital(山口大学医学部附属病院限定)」をクリックする。

③On line Formulary of Yamaguchi university hospital(山口大学医学部附属病院)の目次が開く。

※業務端末で医薬品情報を確認する方法

①処方オーダー画面で右クリックで「DI 検索」を選択する。

②医薬品名、薬効分類等で検索する。
※検索範囲で採用薬品に絞ることが可能。

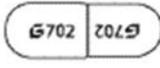
「マンニゲン注 20%」販売中止

「マンニゲン注 20%」販売中止のため、在庫限りで「20%マンニトール注射液「YD」」へ切り替えます。

医薬品名	マンニゲン注 20%	→	20%マンニトール注射液「YD」
製剤写真		→	
内容量	200mL	→	300mL

「リピディル cap 100mg」販売中止

「リピディル cap 100mg」販売中止のため、在庫限りで「リピディル錠 80mg」へ切り替えます。
 ※リピディル錠 80mg は成分の吸収性を高めた製剤であり、リピディル cap 100mg の 5 分の 4 の用量で生物学的同等性が確認されている。

医薬品名	リピディル cap 100mg	→	リピディル錠 80mg
製剤写真		→	
外形		→	
識別コード	G702	→	AK130
用法・用量	1 日 1 回 134~201mg を食後経口投与 適宜減量 1 日 201mg を超える用量は 投与しないこと	→	1 日 1 回 106.6~160mg を食後経口投与 適宜減量 1 日 160mg を超える用量は 投与しないこと
処方例	1 日用量 200mg  100mg cap×2cap	→	1 日用量 160mg  80mg 錠×2 錠

院内副作用報告

★2012 年 5 月に報告された副作用

医薬品	副作用名
ハイペン錠 100mg	急性汎発性発疹性膿疱症 (AGEP)
ヒュミラ皮下注 40mg シリンジ 0.8mL	全身性エリテマトーデス様症状

投与期間制限解除のお知らせ

- ★イクセロンパッチ 4.5mg・9mg・13.5mg・18mg(一般名:リバスチグミン)〈アルツハイマー型認知症治療剤〉
 - ★ ترامセット配合錠(一般名:トラマドール塩酸塩/アセトアミノフェン)〈慢性疼痛・抜歯後疼痛治療剤〉
 - ★ミラペックス LA 錠 0.375mg・1.5mg(一般名:プラミペキソール塩酸塩水和物)
 〔ドパミン作動性パーキンソン病治療徐放性製剤〕
 - ★リクシアナ錠 30mg(一般名:エドキサバントシル酸水和物)〈経口 FXa 阻害剤〉
 - ★リパクレオン cap150mg(一般名:パンクレリパーゼ)〈膵消化酵素補充剤〉
 - ★レクサプロ錠 10mg(一般名:エスシタロプラムシュウ酸塩)〈選択的セロトニン再取り込み阻害剤(SSRI)〉
- 薬価収載後 1 年が経過したため、2012 年 8 月 1 日から投与期間制限が解除され長期投与可能

「シベノール錠」の適正使用について

抗不整脈薬「シベノール錠」において、高齢の腎機能障害患者で血中濃度上昇を伴う心停止が発現し、致命的な経過をたどった症例が発生したため、投与の際は以下の点に注意すること。

1. 腎障害の程度に応じ投与量を減じること
2. 高齢者では少量(例えば 1 日 150mg)から開始すること
3. 本剤投与中は、臨床検査を定期的に行い、必要に応じて適宜血中濃度を測定すること

「ランマーク皮下注」の適正使用について

ヒト型抗 RANKL モノクローナル抗体製剤「ランマーク皮下注」において、国内販売開始後に低カルシウム血症が 45 例報告され、米国で死亡例を含む臨床症状を伴う低カルシウム血症が報告されている。カルシウム又はビタミン D の補充を受けた患者では、低カルシウム血症発現率が低く、程度も軽度であったため、ランマーク投与中は高カルシウム血症の患者を除き、原則、カルシウム及びビタミン D を経口補充すること。(治験時、日本人患者に対しては、全試験期間を通じ、新カルシチュウ D₃ (一般用医薬品) 使用)

★子宮頸がん予防ワクチンの安全対策について

子宮頸がん予防ワクチンの副反応は「ワクチン接種緊急促進事業実施要領」に基づき、因果関係を問わず厚生労働省に報告され、専門家の会議で議論され、発現状況について公表されている。子宮頸がん予防ワクチンの副反応である失神・血管迷走神経反射については、販売開始より添付文書において注意喚起を行っているが、症例が多数報告され二次被害に至った症例が認められていることから、その発現状況と安全対策について紹介するとともになお一層の注意をお願いする。また、2価及び4価ヒトパピローマウイルスワクチンが交互接種（誤接種）された事例も認められていることから、併せて注意をお願いする。

★重要な副作用等に関する情報

以下の医薬品の使用上の注意のうち、重要な副作用等について改訂（追加）したので内容を紹介します。

- ①アログリプチン安息香酸塩(商品名:ネシーナ錠 25mg)＜糖尿病用剤＞
- ②アログリプチン安息香酸塩・ピオグリタゾン塩酸塩(商品名:リオベル配合錠 LD・HD)＜糖尿病用剤＞(未採用)
- ③シタグリプチンリン酸塩水和物(商品名:グラクティブ錠 25mg、ジャヌビア錠 50mg・100mg)＜糖尿病用薬＞
- ④ビルダグリプチン(商品名:エクア錠 50mg)＜糖尿病用薬＞
- ⑤リナグリプチン(商品名:トラゼンタ錠 5mg)＜糖尿病用薬＞(未採用)
- ⑥エキセナチド(商品名:バイエッタ皮下注 5 μ g ペン 300・10 μ g ペン 300)＜糖尿病用薬＞
- ⑦リラグルチド(遺伝子組換え)(商品名:ビクトーザ皮下注 18mg)＜糖尿病用薬＞

【慎重投与】(③、④、⑥、⑦) 腹部手術の既往又は腸閉塞の既往のある患者

【重要な基本的注意】(①、②、④)

急性膵炎があらわれることがあるので、持続的な激しい腹痛、嘔吐等の初期症状があらわれた場合には速やかに医師の診察を受けるよう患者に指導すること。

【重大な副作用】

- ・横紋筋融解症(①、③、④) …筋肉痛、脱力感、CK (CPK) 上昇、血中及び尿中ミオグロビン上昇があらわれた場合は、投与中止、適切な処置。
- ・急性膵炎(①、②、④) …持続的な激しい腹痛、嘔吐等の異常が認められた場合は投与中止、適切な処置。
- ・肝機能障害、黄疸(①) …AST (GOT)、ALT (GPT)、AL-P 等の著しい上昇を伴う肝機能障害、黄疸があらわれることがあるので、異常が認められた場合は投与中止、適切な処置。
- ・皮膚粘膜眼症候群 (Stevens-Johnson 症候群)、多形紅斑(①、②)
…症状があらわれた場合は投与中止、適切な処置
- ・腸閉塞(①～⑦) …高度の便秘、腹部膨満、持続する腹痛、嘔吐等の異常が認められた場合は投与中止、適切な処置

＜参考＞・横紋筋融解症関連症例：①1例、③7例、④6例
・急性膵炎関連症例：①②3例（うち死亡1例）、④1例
・肝機能障害、黄疸関連症例：①7例
・皮膚粘膜眼症候群、多形紅斑関連症例：①②10例
・腸閉塞関連症例：③7例、④6例、⑦3例

⑧モサプリドクエン酸塩水和物(商品名:ガスマチン錠 5mg)＜消化器管用薬＞

【重要な基本的注意】・慢性胃炎に伴う消化器症状に用いる際には、一定期間（通常2週間）投与後、消化器症状の改善について評価し、投与継続の必要性について検討すること。
・劇症肝炎や重篤な肝機能障害、黄疸があらわれることがあるので、長期にわたって漫然と投与しないこと。異常が認められた場合は直ちに投与中止、適切な処置。患者に対し、投与後に倦怠感、食欲不振、尿濃染、眼球結膜黄染等の症状があらわれた場合は、投与中止し、医師等に連絡するよう指導すること。

＜参考＞・肝機能障害関連症例：23例（うち死亡3例）

⑨ヨウ素(プレポダインソリューション)(商品名:プレポダインソリューション 1%)＜外皮用殺菌消毒剤＞(採用なし)**⑩ヨウ素(「ヨードチンキ、希ヨードチンキ、複方ヨードグリセリン等の調剤に用いる」の効能・効果及び用法・用量を有する医薬品)(商品名:「純正」ヨウ素 等)＜外皮用殺菌消毒剤 その他の調剤用薬＞(採用なし)**

【禁忌】(⑨、⑩) 本剤又はヨウ素に対し過敏症の既往歴のある患者

【重大な副作用】(⑩) アナフィラキシー様症状…呼吸困難、喉頭浮腫、喘鳴、蕁麻疹、潮紅等があらわれた場合は使用中止、適切な処置。

＜参考＞アナフィラキシー様症状：1例

「禁忌」追加のお知らせ

★イトリゾール cap 50・内用液 1%・注 1%(一般名:イトラコナゾール)＜抗真菌剤＞

【併用禁忌】リバーロキサバン…リバーロキサバンの血中濃度上昇により出血の危険性増大のおそれあり

★リウマトレックス cap 2mg(一般名:メトトレキサート)＜抗リウマチ剤＞

【禁忌】活動性結核の患者…症状を悪化させるおそれがある

★リピートル錠 5mg・10mg(一般名:アトルバスタチンカルシウム)＜HMG-CoA 還元酵素阻害剤＞

【併用禁忌】テラプレビル…本剤血中濃度が上昇し、重篤な又は生命に危険を及ぼすような事象（横紋筋融解症を含むミオパシー等）が起こるおそれあり

「効能・効果」及び「用法・用量」追加のお知らせ

★イメンド cap 80mg・125mg(一般名:アプレピタント)＜選択的 NK₁ 受容体拮抗型制吐剤＞

【用法・用量】12歳以上の小児には、抗悪性腫瘍剤投与1日目は125mgを、2日目以降は80mgを1日1回経口投与 ※3日間を超えて投与した際の有効性及び安全性は確立していない

★エパデール S900(一般名:イコサペント酸エチル)＜EPA 製剤＞

【用法・用量】高脂血症：1回900mgを1日2回

★ケイツーシロップ 0.2%(一般名:メナテトレノン)＜ビタミン K₂シロップ剤＞

【効能・効果】新生児・乳児ビタミン K 欠乏性出血症の予防

【用法・用量】出生後哺乳が確立したことを確かめてから、1回1mLを経口投与、その後、2回目として生後1週間又は産科退院時のいずれか早い時期、3回目として生後1ヵ月時にそれぞれ1回1mLを経口投与

★ジスロマック点滴静注用 500mg(一般名:アジスロマイシン水和物)＜15員環マクロライド系抗生物質＞

【効能・効果】＜適応菌種＞淋菌、プレボテラ属 ＜適応症＞骨盤内炎症性疾患

★シムビコートタービュヘイラー60 吸入(一般名:ブデゾニド/ホルモテロールフマル酸塩水和物)

＜ドライパウダー吸入式喘息治療配合剤＞

【用法・用量】

	維持療法として用いる場合	維持療法に加えて発作発現時に頓用吸入としても使用する場合 (維持療法として1回1あるいは2吸入を1日2回投与している患者で可能)
用法・用量	1回1吸入1日2回(適宜増減) 最高量1回4吸入1日2回(計8吸入)	1吸入行い、数分経過しても発作が持続する場合、さらに1吸入(適宜増量) 1回発作発現につき最大6吸入まで 維持と頓用の1日合計最高量8吸入まで、一時的に合計12吸入まで増量可能

★ネキシウム cap 20mg(一般名:エソメプラゾールマグネシウム水和物)＜プロトンポンプインヒビター＞

【効能・効果】低用量アスピリン投与時における胃潰瘍又は十二指腸潰瘍の再発抑制

【用法・用量】1回20mgを1日1回

★ノボラピッド注 100 単位/mL(一般名:インスリンアスパルト)(遺伝子組換え)＜超速効型インスリンアナログ＞

【用法・用量】持続型インスリン製剤と併用することがある。必要に応じ静脈内注射、持続静脈内注入又は筋肉内注射を行う。

★ペンレステープ 18mg(一般名:リドカイン)＜貼付用局所麻酔剤＞

【効能・効果】伝染性軟属腫摘除時の疼痛緩和

【用法・用量】小児には1回2枚までを、伝染性軟属腫摘除術予定部位に約1時間貼付

★メイアクト MS 小児用細粒 10%(一般名:セフトレニピボキシル)＜経口用セフェム系抗生物質製剤＞

【用法・用量】小児

＜肺炎、中耳炎、副鼻腔炎＞1回3mg/kgを1日3回食後に経口投与。1回6mg/kgまで投与できるが、成人での上限用量の1回200mg1日3回(1日600mg)を超えないこと

＜上記以外の疾患＞成人での上限用量の1回200mg1日3回(1日600mg)を超えないこと

★リリカ cap 25mg・75mg(一般名:プレガバリン)＜疼痛治療剤(末梢性神経障害性疼痛・線維筋痛症)＞

【効能・効果】線維筋痛症に伴う疼痛

【用法・用量】1日150mgを1日2回に分けて経口投与、その後1週間以上かけ1日用量として300mgまで漸増した後、300～450mgで維持(適宜増減) 1日最高用量450mgを超えない

★レニベース錠 5mg(一般名:エナラプリルマレイン酸塩)＜持続性アンジオテンシン変換酵素阻害剤＞

【用法・用量】高血圧症：生後1ヵ月以上の小児には0.08mg/kgを1日1回経口投与(適宜増減)

※1日10mgを超えない

★ロンゲス錠 5mg(一般名:リシノプリル)＜アンジオテンシン変換酵素阻害剤＞

【用法・用量】高血圧症：6歳以上の小児には、0.07mg/kgを1日1回(適宜増減)1日20mgを超えない

取扱い上の注意のお知らせ

★プレドニン錠 5mg(一般名:プレドニゾン)＜合成副腎皮質ホルモン剤＞

【取扱い上の注意】本剤の錠剤表面に斑点が認められることがありますが、これは使用色素*によるものです。

*使用色素：黄色三二酸化鉄、三二酸化鉄

販売名変更のお知らせ

★アルマール錠 10mg(一般名:アロチノロール塩酸塩)＜高血圧症・狭心症・不整脈治療剤・本態性振戦治療剤＞

(変更前) アルマール錠 10 → (変更後) アロチノロール塩酸塩錠 10mg 「DSP」

★アログリセム cap25mg(一般名:ジアゾキシド)＜高インスリン血性低血糖症治療薬＞(緊急購入薬)

(変更前) アログリセム cap25mg → (変更後) ジアゾキシド cap25mg 「MSD」

★D-ソルビトール内用液 75%「コーワ」(一般名:D-ソルビトール)＜X線造影促進・栄養補給剤＞

(変更前) D-ソルビトール内用液 75%「コーワ」→ (変更後) D-ソルビトール経口液 75%「コーワ」

★ゾレア皮下注用 150mg(一般名:オマリズマブ)＜気管支喘息治療剤(ヒト化抗ヒトIgEモノクローナル抗体製剤)＞ (緊急購入薬)

(変更前) ゾレア皮下注用 → (変更後) ゾレア皮下注用 150mg

★注射用プロスタンディン 20 μ g・500 μ g(一般名:アルプロスタジル アルファデクス)＜プロスタグランジン E₁製剤＞

(変更前) 注射用プロスタンディン 20 → (変更後) プロスタンディン注射用 20 μ g

(変更前) 注射用プロスタンディン 500 → (変更後) プロスタンディン点滴静注用 500 μ g

※在庫限りで切り替え (変更前の製品は 2013 年 3 月 31 日で経過措置期間満了)

販売中止のお知らせ

★コンドロン点眼液 1%(一般名:コンドロイチン硫酸)＜角膜治療薬＞ →2013 年 3 月 31 日で経過措置期間満了

★バリトゲンゾル 250mL(一般名:硫酸マグネシウム)＜消化管 X線造影剤＞→2013 年 3 月 31 日で製造中止

★リピディル cap 100mg(一般名:フェノフィブラート)＜高脂血症治療剤＞→2013 年 3 月 31 日で経過措置期間満了

小型噴霧器「パブライザー」無償化のお知らせ

噴霧式口内炎治療剤「サルコート cap 外用 50 μ g」に用いる小型噴霧器「パブライザー」(一般医療機器、耳鼻咽喉科用空気圧式アプリケーション)の提供方法が以下のように変更

	変更前		変更後 (2012 年 7 月以降)
提供方法	有償販売	→	無償販売
流通方法	単独販売	→	医薬品とのセットによる提供

添加物変更のお知らせ

★メキシチール cap50mg(一般名:メキシレチン塩酸塩)＜不整脈治療剤・糖尿病性神経障害治療剤＞

	変更前		変更後
添加物	トウモロコシデンプン、軽質無水ケイ酸、ステアリン酸マグネシウム カプセル本体に赤色 3 号、黄色三二酸化鉄、酸化チタン、ラウリル硫酸ナトリウム、ゼラチン含有する	→	トウモロコシデンプン、軽質無水ケイ酸、ステアリン酸マグネシウム カプセル本体に赤色 3 号、黄色三二酸化鉄、酸化チタン、 軽質無水ケイ酸 、ラウリル硫酸ナトリウム、 ステアリン酸マグネシウム 、 アセチルグリセリン脂肪酸エステル 、 氷酢酸 、 タルク 、ゼラチン含有する

※外観・大きさは従来と変更なし

★日赤ポリグロビン N5%2.5g/50mL・5g/100mL(一般名:人免疫グロブリン)＜人免疫グロブリン製剤＞

		変更前		変更後
添加物	2.5g 製剤	マルトース水和物 5g	→	マルトース水和物 5g、 塩酸適量、水酸化ナトリウム適量
	5.0g 製剤	マルトース水和物 10g	→	マルトース 10g、 塩酸適量、水酸化ナトリウム適量

販売移管のお知らせ

以下の薬剤の販売元が変更

	変更前		変更後
アベロックス錠 400mg	バイエル薬品	→	富士フィルムファーマ (2012年9月1日以降)
グルコバイ錠 100mg			
シプロキサン注 300mg			
マーズレンS配合顆粒	ゼリア新薬	→	味の素製薬株式会社 (2012年7月1日以降)
ロタリックス内用液	グラクソ・スミスクライン	→	第一三共株式会社 (2012年7月2日以降)

☆Drug Safety Update No. 210 より使用上の注意改訂のお知らせ

改訂内容の重要度 ★：最重要 ※：重要

成分名 (薬品名)	主な改訂内容
※エシタロプロラムシウ酸塩 (レクサプロ錠)	禁忌：QT延長のある患者（先天性QT延長症候群等） 慎重投与：著名な徐脈等の不整脈又はその既往のある患者 重要な基本的注意：投与によりQT延長がみられていることから、心血管系障害を有する患者に対しては、開始前に心血管系の状態に注意を払うこと 重大な副作用：QT延長、心室頻拍（torsades de pointesを含む） …異常が認められた場合には投与中止、適切な処置
※アリスケンマル酸塩 (ラジレス錠)	禁忌：アンジオテンシン変換酵素阻害剤又はアンジオテンシンII受容体拮抗剤投与中の糖尿病患者（ただし、アンジオテンシン変換酵素阻害剤又はアンジオテンシンII受容体拮抗剤投与を含む他の降圧治療を行ってもなお血圧のコントロールが著しく不良の患者を除く） 重要な基本的注意：腎機能障害患者においては、血清クレアチニン値・クレアチニン値上昇のおそれがあるので慎重に投与。なお、eGFRが60mL/min/1.73m ² 未満の腎機能障害患者へのアンジオテンシン変換酵素阻害剤又はアンジオテンシンII受容体拮抗剤との併用については、治療上やむを得ないと判断される場合を除き避けること。
※ミル酸ガレノキサシン水和物 (ジエナック錠)	重大な副作用：・QT延長、心室頻拍（Torsades de Pointesを含む）、心房細動 …異常が認められた場合には投与中止、適切な処置 ・急性腎不全…異常が認められた場合には投与中止、適切な処置
※テラプレビル(テラビック錠)	慎重投与：腎機能障害のある患者 重要な基本的注意：急性腎不全等の重篤な腎機能障害及び重篤な肝機能障害の多くが投与開始1週間以内に発現しているため、腎機能検査（クレアチニン、尿素窒素、尿酸等）、肝機能検査及び電解質等の生化学検査を、開始後1週間以内に少なくとも2度実施し、更に開始2週間後及び4週間後に1度、その後は4週間に1度実施すること 重大な副作用：・急性腎不全…定期的に腎機能検査を行い、異常が認められた場合には投与中止、適切な処置 ・重篤な肝機能障害…定期的に肝機能検査を行うなど観察を十分に行い、黄疸や著しいトランスアミナーゼの上昇を伴う肝機能障害があらわれた場合には投与中止、適切な処置 ・横紋筋融解症…脱力感、筋肉痛、CK（CPK）上昇等に注意し、症状があらわれた場合には投与中止、適切な処置

医薬品医療機器情報提供ホームページ (<http://www.info.pmda.go.jp/>) で確認可能

削除薬のお知らせ

下記薬剤のオーダ中止

オーダ中止日	商品名	理由
2012.6.22	タココンブ組織接着用シート 3.0 cm × 2.5 cm (スモールサイズ) 4.8 cm × 4.8 cm (ハーフサイズ)	販売中止のため (代替薬：タコシール組織接着用シート 4.8 cm × 4.8 cm (ハーフサイズ))
2012.7.3	ステリコットα カリメート散 5g/包	ワンショットプラス PEL - II に切り替えのため 在庫がなくなったため (代替薬：ケイキサレートドライシロップ、アーガメイトゼリー)
2012.7.6	バリトゲンゾル 250mL	販売中止のため

包装・表示変更のお知らせ

★アバステチン点滴静注用 100mg/4mL・400mg/16mL(一般名:ペバシズマブ)

＜抗悪性腫瘍剤/抗 VEGF ヒト化モノクローナル抗体＞

	従来品		変更品
個装デザイン変更		→	
バイアル・キャップラベルデザイン変更	 		 

★アルマール錠(一般名:アロチノロール塩酸塩)＜高血圧症・狭心症・不整脈治療剤・本態性振戦治療剤＞

	従来品 (アルマール錠)		変更品 (アロチノロール塩酸塩「DSP」錠)
名称及び PTP シートデザイン変更		→	 表面:「α・β遮断剤」削除 裏面:社名追加

★インテバンクリーム 1%(一般名:インドメタシン)＜外用鎮痛消炎剤＞

	従来品		変更品
チューブデザイン変更		→	 ・バーコード表示 ・規格含量表示

★D-ソルビトール内用液 75%「コーワ」(一般名:D-ソルビトール)＜X線造影促進・栄養補給剤＞

	従来品		変更品
ラベル表記追加		→	 調剤包装単位コード追記

★デュロテップ MT パッチ 2.1mg・4.2mg・8.4mg(一般名:フェンタニル)＜経皮吸収型持続性疼痛治療剤＞

	従来品		変更品
外袋デザイン変更		→	 切り込み口を ・3か所に変更 ・v字型に変更

★ニゾラルローション 2%(一般名:ケトコナゾール)＜外用抗真菌剤＞

	従来品		変更品
ラベル表示追加		→	 GS1-RSS コード (調剤包装単位) 追加

★パプライザー(一般医療機器、耳鼻咽喉科用空気圧式アプリーケーター)＜小型噴霧器＞

	従来品		変更品
ポンプ部の色変更 包装箱サイズ変更	 水色	→	 ピンク

★ビオフェルミン R 散＜耐性乳酸菌製剤＞

	従来品		変更品
アルミ包装変更		→	 ・四方シールに変更 ・寸法変更 ・使用期限、製造番号追記

★プラザキサ cap 75mg 110mg(一般名:ダビガトランエテキシラートメタンスルホン酸塩)＜直接トロンビン阻害剤＞

	従来品		変更品
110mg カプセル色変更	 胸部:不透明な帯黄白色	→	 胸部:不透明な淡青色
PTP シート表示変更			 含量表記を白抜き文字に変更

★ペノキシール点眼液 0.4%(一般名:オキシプロカイン塩酸塩)＜眼科用表面麻酔剤＞

	従来品		変更品
キャップ形状変更		→	 キャップの形状を 円筒形に変更

★ペンレステープ 18mg(一般名:リドカイン)＜貼付用局所麻酔剤＞

	従来品		変更品
ライナー表示変更		→	

★ミドリン P 点眼液(一般名:トロピカミド・フェニレフリン塩酸塩) <検査用散瞳点眼剤>

	従来品		変更品
キャップ形状変更		→	キャップの形状を円筒形に変更

★リバロ錠 2mg(一般名:ピタバスタチンカルシウム) <HMG-CoA 還元酵素阻害剤>

	従来品		変更品
PTP シートデザイン変更		→	薬効名(高コレステロール血症治療剤)、調剤包装単位コード追記

★カルボプラチン点滴静注液「NK」50mg・150mg・450mg(一般名:カルボプラチン) <抗悪性腫瘍剤>

	従来品		変更品
副片ラベルデザイン変更		→	(注)

★クモロール PF 点眼液 2%(一般名:クロモグリク酸ナトリウム) <抗アレルギー剤>

★プロキレート PF 点眼液 2%(一般名:カルテオロール塩酸塩) <緑内障治療剤>

★リンベタ PF 眼耳鼻科用液 0.1%(一般名:ベタメタゾンリン酸ナトリウム) <副腎皮質ホルモン剤>

	従来品		変更品
ノズルの色変更	白色半透明	→	青色半透明

★ゾレア皮下注用 150mg(一般名:オマリズマブ) <気管支喘息治療剤(ヒト化抗ヒト IgE モノクローナル抗体製剤)>
(緊急購入薬)

	従来品		変更品
ラベル表示変更		→	(注)

★ノボラピッド注 100 単位/mL(一般名:インスリン アスパルト) <超速効型インスリンアナログ製剤>

	従来品		変更品
ラベル表示変更		→	筋肉内注射、静脈内注射又は持続静脈内注入のマーク追加

★ロコルナール錠 100mg(一般名:トラピジル) <循環機能改善剤>

	従来品		変更品
PTP シートデザイン変更		→	調剤包装単位コード表示シートデザイン変更

「チガソン cap」服用の際の注意

チガソン cap (角化症治療剤) には催奇形性があり、副作用の頻度が高いため、以下の点に注意。

1. 女性は、妊娠していないことを確認の上、服用開始、服用中は避妊、服用終了後は少なくとも 2 年間は避妊、男性は、服用中は避妊、服用終了後は少なくとも 6 ヶ月間は避妊すること
2. 投与中および投与中止後少なくとも 2 年間は献血を行わないこと。
3. 肝障害を起こすことがあるため、肝機能検査 (AST、ALT、AL-P、 γ -GTP 等) を服用開始前、服用開始 1 ヶ月後及び服用中は 3 ヶ月毎に行い、肝障害が疑われるときは直ちに中止すること。
4. 長期服用の場合に過骨症や骨端の早期閉鎖があらわれることがあるため、関節痛・骨痛、運動障害等の症状に注意すること。また、定期的に関診、X 線検査、臨床生化学的検査 (AL-P、Ca、P、Mg 等) を行うことを推奨する。
5. 口唇炎、落屑等が認められているため、投与量の増減や投与の継続を慎重に判断すること。
6. ビタミン A を含む医薬品やサプリメントを併用した際に、ビタミン A 過剰症状 (以下参照) が現れることがあるため、併用は避けること。頭蓋内圧亢進に伴うと考えられる症状が現れた場合、投与中止など適切な処置を行うこと。
急性症状: 頭蓋内圧亢進 (うっ血乳頭、頭痛、悪心、嘔吐、目のかすみ)、皮膚落屑 等
慢性症状: 肝肥大、四肢の骨痛、頭蓋内圧亢進、皮膚症状、(小児で) 骨端線早期閉鎖 等
7. チガソンは脂溶性薬剤のため、牛乳で服用したり、脂っこい食事とともに服用することで、チガソンの吸収量が増加するとの報告があるため、食事の質を大幅に変えないことが望ましい。